

第40回学習会を、平成24年9月7日(金)19:00~20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

### 第40回の内容

講師 重枝一郎先生

- コンセンサス実習
- 人はいろいろ(演習1)
- SOS~砂漠でサバイバル(演習2)
- ~をよくする人(ex.卒業式・体育会・合唱コンクール等)(実践紹介)
- ビーイング(実践紹介)



## コンセンサス実習

### 1 コンセンサス実習とは

- グループで何か決めるときの話し合いを体験する
- コンセンサス(合意)という話し合いを体験する
- 話し合いでメンバーのかかわり方に気付く



【表】 自分の意見をしっかり伝えながら他との意見の違いを調整して、みんなが納得できるような決定づくりを考える

【裏】 ワクチン友だち(耐性を高める)

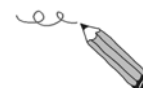
ソーシャルスキル(自分の思いを適切な言葉や態度にして相手に伝える)

### 2 コンセンサス実習の流れ

- ①イントロ(認識の違いを実感できる簡単なエクササイズ)
- ②個人で決定
- ③グループで決定→「多数決でない意見決定の仕方を体験してほしい。少数派はやる気が下がる」
- ④振り返り→お互いのよさを認め合う場面を設定する
- ⑤まとめ →人の気持ちに配慮した行動ができた生徒をみんなと共有 「世論づくり」

### 3 コンセンサスのポイント

- よく話し合う
- 自分が少数派でも自分の考えをはっきり伝える
- どんな意見でもしっかり聞く
- リーダーを決めないのもひとつのやり方(自由さ、でも制限時間は知らせる)



## 4 振り返りのポイント

- 自分の考えを伝えることができましたか
- 他の人の考えをよく聞くことができましたか
- 話し合い中に友だちのよかったところは、具体的にどんなところでしたか
- 多数決と比べて、コンセンサスをどう思いましたか
- 悪ふざけをしたり、人を傷つける言葉を使ったりしていませんか

### 解 説

#### 自分なりに「定義」して磨いていく人が「主体性のある先生」

風土会は、「生徒指導総合」講座です。「生徒指導」とは、小・中学校等すべての学校において、全教育活動を通して行われる教育機能です。

生徒指導は、次のように定義されています（文部省『生徒指導資料集 20 集』, 1988 年）。

「生徒指導とは、本来、一人一人の生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、さらに将来において社会的に自己実現できるような資質・態度を形成していくための指導・援助であり、個々の生徒の自己指導能力の育成を目指すものである」

そのために、日々の教育活動において、次の 3 点に特に留意することが求められると、文部科学省「生徒指導提要」2010 年 3 月で示されています。

- ① 児童生徒に自己存在感を与えること
- ② 共感的な人間関係を育成すること
- ③ 自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること

生徒指導は「機能」（はたらき）なので、教育課程（各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動）をはじめ、朝の会、帰りの会、給食時間、清掃時間、休み時間や放課後の活動、登下校時の安全指導を含む児童生徒の学校生活全般に対して作用します。

だからこそ、「風土会」では、何かひとつだけに閉じない全教育活動を対象とした総合的な内容について学んでいるのです。

さまざまな学習内容は、すべてつながっています。学んでいる先生方は、自分にヒットしたところを持ち帰って、自分の学校で実践して下さい。それが、「主体性のある先生」です。

#### 「開発的生徒指導」はすべての生徒が対象＝授業化できる

「開発的生徒指導」のキーワードは「すべての生徒に」です。すべての生徒が対象ですから、授業化することができます。先手的に取り組むことができる「積極的生徒指導」であり、この風土会では、これを中心に学んでいます。

これに対して、消極的生徒指導と言われる「予防的・問題解決的生徒指導」は、一部の生徒が対象です。それでは実際に、どれくらい「開発的生徒指導」を意識した授業が行われているのでしょうか？それを担う時間が、「特別活動」だと考えます。

#### 特別活動と教科の授業で総合的に

中学校では、生徒指導はチーム実践ですが、小学校では、1 人の担任が授業も生徒指導もしています。

算数や国語の授業で活躍できず、自尊感情が高まらない子どもも、特別活動の時間で輝くことができるかもしれません。組織的、総合的に教育活動をすると、その成果も大きくなります。

例えば、全教科の学習過程に「自分の考えをもたせる」「話し合い、練り合い」「振り返り、まとめ」を位置付けると、相互作用があります。関係性を大切にしたい授業を展開し、積み上げることで、子どもの自尊感情が高まります。

それでは、「自分の考えをもつ」という場面で、どのくらいの子どもがきちんと、自分の考えをもっているのでしょうか？数学の時間ではどうでしょう？どうしても学力による差が生まれます。

だからこそ、教科の時間だけではなく、特別活動でも「場」をつくるのです。

例えば、学級会や話し合い活動で、「自分の考えをもち、話し合う」体験をさせます。学級委員や合唱コンクールのリーダーを決める場面で、多数決禁止で話し合いをさせます。そのような体験を積み上げると、徐々に成熟していきます。

### 表のカリキュラム・裏のカリキュラム

「コンセンサス実習」の表のカリキュラムは、「自分の意見を伝え、他との違いを調整して、みんなが納得できるような決定づくりをする」ことです。

自分の考えをつくるには、「認知的要因」と「習慣的要因」があり、場を設定し練習する必要があります。さらに、「感情的要因」として、自分の考えが話せる支持的風土が必要です。

教科の授業でも、「話し合い・練り合い」の場面では、自分の考えが話せる「感情的要因」が重要になります。それが、「裏のカリキュラム」です。いろいろな人とコンセンサス実習をしておけば、誰とでも話せるようになります。

### 第1の矢

「第1の矢」とは、あたりまえ（第2の矢）を放つ前に、子どもの心に刺激を入れる「語り」のようなものです。このコンセンサス実習でも、イントロで「第1の矢」を放っておくと、話し合いが活性化します。「さあ、話し合って・・・」では、うまくいかないことが多いです。

今回は、次のようなイントロでの演習で、話し合いの心構えをしてみました。

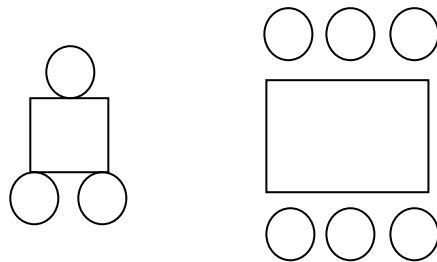
### 演習1 「人はいろいろ」

準備するもの：1枚の白紙と筆記用具

質問は受け付けません。他の人が描いたものを見てはいけません。

- ① 四角形をきっちり描いて下さい
- ② その上下に、○をバランス良く3つ描いて下さい

描いたものを、他の人と比べると、みんなバラバラです。



例えば、紙を縦に使った人、横に使った人・・・

四角形も、正方形・長方形・ひし形・・・大きさもバラバラ・・・

○を、3つ描いた人、上に3つ、下に3つ、合計6つ描いた人・・・描いた位置や大きさも様々・・・

このように、一人ひとりの認知の仕方は違います。だから、他者に伝えるのは難しいのです。

伝えるためには、相手意識に基づいた適切な言葉や態度が大切です。

だから、ルールづくりやソーシャルスキル・トレーニングをする必要があるのです。

※「ルールづくり」「ソーシャルスキル・トレーニング」

### 空気づくり

コンセンサス実習が遊びで終わらないためにも、教科の授業とオーバーラップさせながら、ルールとマナーを意識させることが大切です。相手を尊重していることを、言葉や態度で表すのです。それを意識させると、話の聴き方や質問の仕方等が変化していきます。まずは、そのような「空気づくり」をします。しかし、空気が生まれただけでは成長していません。「人はしたことは理解する」と定義付け、繰り返しトレーニングを積んでいきます。

## 「世論」にする

コンセンサス実習では、まず個人で考えた後、グループで考えを交流します。多数決は基本的には禁止します。少数派の意見も大切に、みんなのモチベーションを高めていきます。そのようなスタンスを、教室の「世論」にしていきます。

話し合いの過程では、少数派の意見も大切にしながら、全員が納得する方向に収束していきます。それを教師が評価することで、教室のルールにしていきます。「すごいね、みんなで決めたことだね」それが、「世論」になるのです。

## 人間性が高まる瞬間

「人間性が高まる瞬間とは、どんな瞬間だろう？先生の経験で実感しているのは、たった一人の意見でも真剣に聞いているときに、人間性が高まると感じる。少数派の人のことも理解しようとする人って、心が広いなあ、器が大きいと思う。そういうときが、人間性が高まる瞬間。何か生まれる。絶対に気づきがある」

教師が上記のような、子どもの心に感じさせる話（感話）をすることは、「世論」を強化します。

## 司会を決めなくて話し合いをさせてみる

コンセンサス実習を進めるときに、司会を決めないパターンもあります。司会がリーダー的だと、ファシリテーターとしての役割にならず、司会の意見に流されることがあるからです。司会がいないと話し合いができないと決めつけず、自由に意見を出し合う空気づくりも大切です。司会あり、司会なしの両方のパターンで、コンセンサス実習に取り組んでみて下さい。

## 振り返りのポイント

具体的な場面について、「感情面」の振り返りを重視します。

「あの場面での友だちの言葉がうれしかった」「ホッとしたり」等、小・中学生にとっては、感情面の振り返りがとても大切です。いじめや不登校の予防、学力向上にもつながります。このような、本音の感情交流をたくさんしておく、心の安定を生みます。クラスに支持的風土が醸成されます。

クラスの実態によっては、悪ふざけや人を傷つける言葉を使っていないか等、注意をはらう必要があります。必要に応じて、ソーシャルスキル・トレーニングも取り入れます。

## 表裏のある人

表裏があることは、よくないことなのでしょうか？人間誰しも、表裏があるのがあたりまえです。

例えば、親友とは表だけでつきあっているのでしょうか？自分の裏を話した瞬間、グッと距離が近付くことがあります。裏とは、自分は知っているけれど他者には見せていない一面です。それをうまく出すことで、他者と深くつきあうことができます。これは、裏の使い方の意味や価値を考えるという発想です。

エンカウンターとは、本音の感情交流をすることです。本音の交流は、本当に仲良くなったからできるものです。職場でも、表だけで打ち合わせ等をしていても、うまくいかない場面があります。そう考えると、すべては人間関係が鍵を握っているのです。職場でも、もっと自分の裏を見せて同僚と話すことで人間関係が深まり、同僚性や協働性が高まるのだと思います。

マサチューセッツ工科大学のダニエル・キム教授が提唱している「成功の循環」は、

①関係の質が高まる→②思考の質が高まる→③行動の質が高まる→④結果の質が高まる という因果関係を示しています。

このように、職場で結果の質を高める方法は、回り道のように思えて実は、人間関係の質を高めることなのです。こう考えると、学校教育でも仕事でも、人が学ぶべきことは、「人間関係」の在り方なのかもしれません。そして、個人に求められるのは、「人間性が高まる瞬間」をたくさん体験し、人間としての器を大きくしていくことだと思います。

## 演習 2 「SOS 砂漠でサバイバル」

エンカウンターの本に載っているエクササイズを実際に体験しました。  
飛行機が砂漠に不時着した場合、

- ① この場にとどまり、助けを待つ
- ② 住居地のあるところまで歩いて行く

どちらにするか、小グループで話し合い、決定します。

また、12の品物に、重要な順に番号をつけます。  
品物は下記の通りです。

懐中電灯・地図・雨具・コンパス・ピストル・パラシュート・食塩・水・本・コート・鏡・酒（ウォッカ）

話し合いをはじめると、どのグループでも活発に意見を言い合い、白熱した雰囲気が生まれました。  
コンセンサス実習には、クローズドエンドとオープンエンドの2種類があります。  
クローズドエンドは答えがあります。ゲーム的要素があり、楽しい雰囲気になります。  
オープンエンドは答えがありません。認め合う空気が大切です。

今回のエクササイズはクローズドエンドです。答えがあります。

正解は「その場で待つ」です。

飛行機に遭難の可能性が出てくると、捜索機がフライトプランのルートを検索します。勝手に自分たちで動き始めると、ルートから外れる可能性や体力が尽きる可能性が高くなります。過去2000のケースからも生き残る確率が一番高い方法が「助けを待つ」です。

品物の1番は鏡です。これは、光を反射させて助けにきた捜索機に場所を知らせるためです。

答え合わせの時間は、担任との関係性を高める時間になります。正解・不正解にこだわるのではなく、後味よく終わらせて、日常につなげます。その積み上げをフィードバックしながら、高まりを自覚させていきます。そうすると、学級の文化として定着していくのです。

このように、楽しみながらたくさんエクササイズをしていくと、白熱した話し合いのできる集団に育っていきます。

## 実践紹介 「～をよくする人」

「～をよくする人」は、オープンエンドのコンセンサス実習です。

まず、個人のシートに自分の考えを書きます。

例えば、「鍛錬遠足をよくする人」の場合、足や手はどんな風に使いますか？という問いに、生徒は次のように記述しています。

「つかれている人のペースに合わせる足」

「困っている人の手をひっぱる手」

次に、グループで話し合っ、話し合った内容を模造紙に書かせます。

グループ活動をさせると、自然に役割分担ができます。

だからこそ、グループ活動はどんどんさせた方がいいのです。

グループで仕上げた模造紙は、教室に掲示します。

また、個人のシートは学級通信で紹介します。

このような取組の積み重ねが、支持的風土づくりです。



## 実践紹介 「ビーイング」

ビーイングとは、「あるべき姿」という意味です。

夏に、様々な学校から集まった70人の中学生の研修がありました。そこで、小グループごとにリーダーを決めることになりました。あなたなら、どのように決めますか？

リーダーをしたい人？と立候補させるやり方もあるでしょう。しかし、それでは弱いと思います。「自他共に認めるリーダー」を選出したいからです。

そこで、「ビーイング」というコンセンサス実習を取り入れました。

人の形をした絵の内側に「魅力のある人はどんな人か？」外側に「魅力のない人はどんな人か？」を書かせます。それを、グループの中で発表させます。

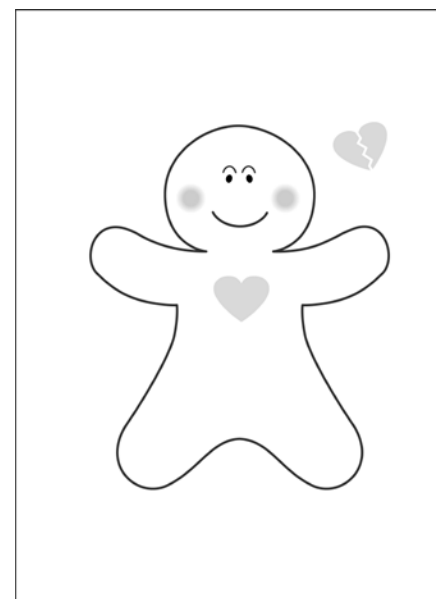
誰の話す態度や内容がよかったか。みんなから認められた人を、リーダーとして紹介します。どこがよかったかを具体的に発表させます。リーダー本人ではなく、メンバーに発表させます。「～の～なところがよかったから～を選びました」リーダーに選ばれた生徒は、自尊感情が高まります。「リーダーになりますか？」「はい」素直にリーダーとしてがんばろうという気持ちになります。

リーダーとして活動した後に、「リーダーとしてくじけそうになったけど、ビーイングの授業を思い出してがんばれた」という感想があったそうです。このように、他者から認められたという経験が支えになるのです。

人は厳しい環境の中で鍛えられると忍耐強くなると考えられていますが、周りからの励ましや人とのかかわりによって、つらいときでもがんばろうと思う心が育つのです。

「自己存在感」を与え、「共感的な人間関係」を育成すること。「自己決定の場」を与えること。教師はそれらを意識した教育活動を、意図的・効果的に仕組みでいきます。タイミングという武器を使って、さりげなく実践を積み重ねましょう。

コンセンサス実習もアレンジ次第で、さまざまな場面で活用できます。ねらいや意図をもって、効果的な実践にチャレンジしてください。



## 本日のキーワード

- コンセンサス（合意）
- ワクチン友だち（耐性を高める）
- 人間性が高まる瞬間

### ♪ 学習会に参加された先生方の感想 ♪ （参加人数 35名）

- ・今日のコンセンサス実習は、大人でもとても楽しめる内容だったので、子ども達がやると盛り上がるのがイメージできました。重枝先生が、学んだことを自分なりでいいので定義付けて実践するのが大事だとおっしゃったことが印象に残りました。とにかく、いいと思ったことはやってみようと思いました。
  - ・「いい意見を取り上げるタイミングが大切」私はこの感覚が鈍かったかもしれません。「あー・・・皆に広めておけばよかった」と後の祭りになってしまうことが多く、反省します。初めて風土会に参加させていただきました。コンセンサスを体験させてもらえて、認められる感覚や相手のよさを感じとる感覚を体感できました。
  - ・生徒に対して、「人間性が高まる瞬間とはどんな時かを考えさせる」というお話が印象に残りました。少数派の人のことも本気で理解する、どんな意見でもしっかり聞くということが、日々の教育活動で実践できて、生徒に身に付いたら、いじめやトラブルが起きにくくなると感じました。
- (1時間という短い時間の中に、学ぶべき内容がたくさん凝縮されているのが「風土会」のよさだと思っています。先生によって、印象に残るキーワードはさまざまです。それがおもしろいと、感想を読んで感じます。)
- ・説得力のある内容や話し方、笑いもある話は、生徒からみれば本当に魅力的にうつるだろうなと感じました。(もちろん、生徒だけでなく大人がみてもですが)。そのためには、やっぱり、さらに勉強をしていかななくてはいけないし、アウトプットしていく実践が必要であると思いました。
  - ・やっぱり今日も来てよかったです。早速、実践します。  
自分の実践が正しい方向に導いているのか、自己満足で終わっていないかなど、迷い、悩むことはありますが、相談できにくく、そのまま時を流している感じがします。もっと理論を入れていけばいいのですが、文章だけではピンとこないし入ってこないのが困っています。
  - ・人と人との間にある見えないものが見えるようになることが、人を好きになったり、生きることが楽しくなったりするんじゃないかと思いました。そんな学校を目指したいものだと思います。  
班長の決め方、リーダーの選び方にワークを入れながら行うやり方に興味をもちました。
- (「魅力のある先生」になりたい！！それは確かに、見える部分のことだけではないと思います。「自分の実践が正しい方向に導いているのか、自己満足で終わっていないか」と迷い、悩んでいる先生は「魅力的」です。そんな時間をもてる先生はきっと、人と人との間にある見えないものを見ようとしている先生だと思うからです。)
- ・はじめて参加させていただきました。小手先の指導（エンカウンター等）を日常の指導に活かして定着させて、ルールとリレーションを高めて、自尊感情の高まる瞬間を味わわせたいと思いました。
  - ・久しぶりの風土会でしたが、とても時間が過ぎるのが速く、あっという間でした。ノートを取りながら重枝先生のお話を聴くのは大変なので、やはり前もってノートを書いておいて講義を受けたいと思いました。部活指導もありますが、何とか早く来たいと思います。次回の内容がとても楽しみです。
  - ・毎回の内容がつながっていて、いつもうなずきながら聞いています。演習が楽しく、子どもにも改良して実践しています。

(はじめての先生、久しぶりの先生、毎回のつながりを感じてくれている先生、いつでも大歓迎です！)